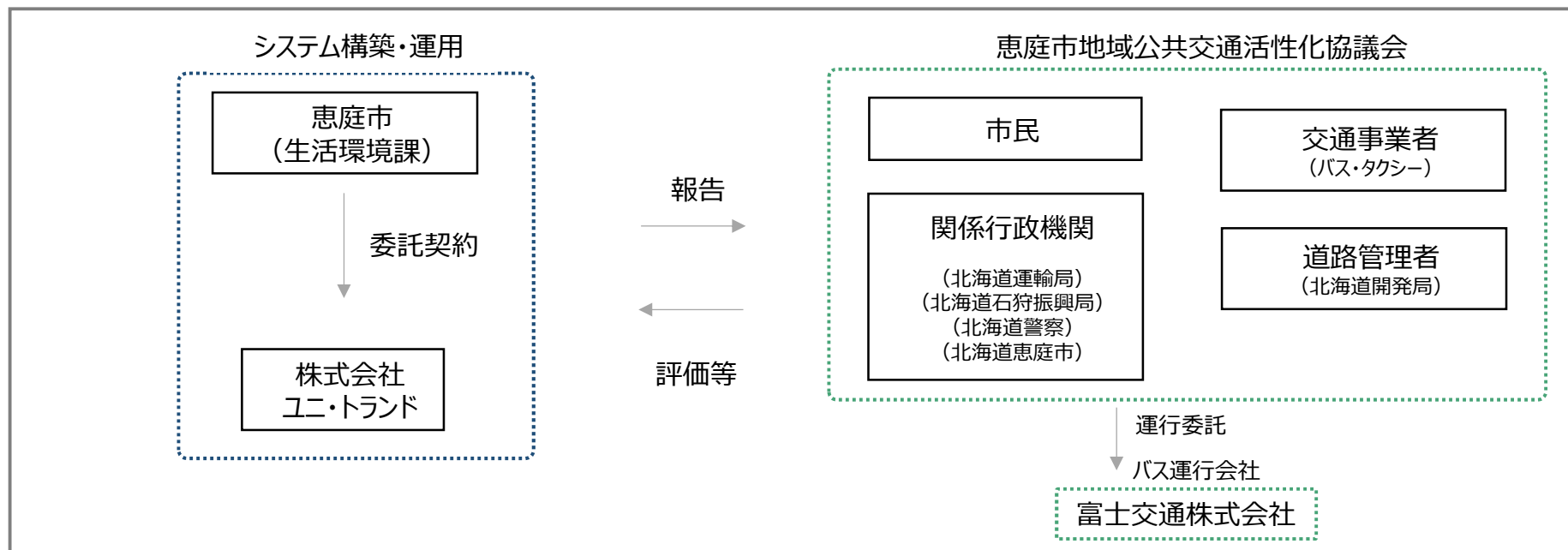


## 事業概要 【地域公共交通案内情報デジタル化推進事業】

自治体名	北海道恵庭市	人口	70,482人	事業費	4,373千円 (うち交付金充当額2,186千円)
事業概要	<p>コミュニティバスに遅延が発生した場合、職員が各バス停を巡回し、バス利用者に状況説明を行っている。現行ではリアルタイムに運行情報を提供できないため、新たなバスロケーションシステムの導入により、リアルタイムな情報を提供し、バス利便性を向上することが可能となる。</p>				
主な経費	<p>【Web版バスロケーションシステム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行のバスロケーションシステムは、基本的にスマートフォンのアプリを通じてバスの位置情報のみをバス利用者に公開している状況である。</li> <li>・ 本事業のサービスに移行することにより、WEB版のバスロケーションシステムを提供し、バス停に掲示されたQRコードを読み込むことで、バスの詳細な運行情報（静的情報および動的情報を確認できるようになる。</li> <li>・ 自治体および運行事業者から通知すべき運行情報や平常時のイベント情報などを、リアルタイムで利用者に発信する仕組みが整備される。</li> </ul> <p>【デジタルサイネージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内JR 3 駅に業務用モニター（50型）を設置することにより、通信手段を持たない利用者にも遅延・運休情報等を提供することができる。</li> </ul> <p>バスロケーションシステム構築（委託料） 4,373千円</p>		<p>エコバス</p> <p>市役所・運行事業者</p> <p>・ バスの位置情報の配信</p> <p>・ 運行情報を取得 ・ お知らせ・運休情報・イベント情報等を発信</p> <p>サーバー</p> <p>スマートフォン</p> <p>サイネージ</p> <p>スマホなしでも確認可能</p>		

# 実施体制【地域公共交通案内情報デジタル化推進事業】

## ■ 事業実施体制



名称	役割
北海道 恵庭市	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画の立案</li> <li>報告書作成をはじめとする事業全般の管理・統括業務</li> </ul>
株式会社 ユニ・トランド	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスロケーションシステムの構築・運用（検討段階）</li> </ul>
恵庭市地域 公共交通 活性化協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>本システムを含む公共交通政策全体の評価</li> </ul>
富士交通 株式会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>えにわコミュニティバス（エコバス）運行事業者</li> </ul>

名称	役割
交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通サービス提供者の立場からのバスロケーションシステムへの意見・アドバイスや評価</li> </ul>
道路管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路管理者としての立場からのバスロケーションシステムへの意見・アドバイスや評価</li> </ul>
関係行政機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>各関係行政機関の立場からのバスロケーションシステムへの意見・アドバイスや評価</li> </ul>

## 効果検証【地域公共交通案内情報デジタル化推進事業】

成果目標① バスロケーションシステムへのアクセス数			
年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	2,921件	7,860件	11,895件
実績値	21,771件		
検証結果	<p>市HP、公式LINE、町内会の回覧板等の周知、老人クラブや外国人向けの出前講座におけるバスロケーションシステムの導入の説明、全162すべての停留所へのバスロケーションシステムの二次元コードの貼り付け等、地道な活動により1年目目標値の2,921件を大幅に上回る結果となりました。</p> <p>1年目から成果を上げることができましたが、アクセス数が今後も増えるよう利用者が利用しやすい環境づくりに取り組むとともに、利用者へ説明する機会をとらえてバスの乗り方だけでなくバスロケーションシステムの周知を今後も進めてまいります。</p>		
成果目標② デジタルサイネージシステムによる情報発信件数			
年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	45件	60件	60件
実績値	11件		
検証結果	<p>デジタルサイネージシステムによる情報発信件数については、1か月5回の情報発信を行う想定をしていましたが、天候不良や自然災害による計画運休等の周知する事象はほとんどなく、イベント周知やイベントによるバスのルート変更等の周知も年数回程度という実績から、当初の想定を下回る結果となりました。</p> <p>前述のとおり、天候不良や自然災害による計画運休や遅延情報の周知、イベントの周知やイベントによるバスのルート変更等の周知については、今後においても周知が必要な情報かどうかを見極めて遺漏なく発信してまいります。</p>		

## 効果検証【地域公共交通案内情報デジタル化推進事業】

成果目標③ コミュニティバス（エコバス）の年間利用者数			
年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	390,960人	396,900人	402,400人
実績値	411,855人		
検証結果	<p>市HP、公式LINE、町内会の回覧板等の周知、老人クラブや外国人向けのエコバスの乗り方講座の実施、環境エネルギー展への出展等を実施したこと、また令和7年9月より既存路線のバス停の増設や新規路線の試験運行の開始により、目標値を上回る411,855人という結果となりました。</p> <p>エコバスの利用者数を増やすことがバスロケーションシステムの利用者数の増加にもつながることから、利用者数が今後も増えるように利用者が利用しやすい環境づくりに取り組むとともに、老人クラブや外国人向けの出前講座を積極的に開催してまいります。</p>		
成果目標④ コミュニティバス（エコバス）の利用者満足度			
年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	50%	55%	60%
実績値	54.2%		
検証結果	<p>バスロケーションシステムの導入や出前講座に加えて、令和7年度は運転手の接遇マナー研修を実施し利用者との接し方等について学ぶ機会を提供させていただきました。また、日々電話や窓口での問い合わせについても懇切丁寧な対応を心掛けていることが、エコバス利用者の満足度が目標値を上回った要因と考えています。</p> <p>バスの運転手の接し方が利用者満足度に影響することが考えられることから、接遇のみならず、急発進や急ブレーキをかけないといった運転技術の向上や車内の温度管理等利用者目線に立ったサービス向上も非常に重要であることから、運行事業者と連携して利用者満足度の向上を目指してまいります。</p>		

## 効果検証【地域公共交通案内情報デジタル化推進事業】

成果目標⑤ デジタルサイネージシステムの情報発信による満足度			
年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
目標値	50%	55%	60%
実績値	72.8%		
検証結果	<p>バスロケーションシステムを読み込むことができる二次元コードをすべての停留所に設置しましたが、デジタルサイネージについてはスマートフォンをお持ちではない方でも市内JR各駅でバスの運行状況や位置情報を確認することができるため、高い満足度を達成することができました。また、自体や色等、利用者にとって見やすいレイアウトを心掛けました。</p> <p>デジタルサイネージは電子機器であるため、機器の不具合が起きていないか定期的な点検を行うとともに、運休情報や遅延情報等、行政として発信すべき情報を遺漏なく発信することによって、更なる満足度の向上を目指してまいります。</p>		